

青年期における「相談する」行動の意味

— 大学生を対象として —

森 田 美 弥 子

1. 問題と目的

メンタルヘルスへの関心が高まるなか、「臨床心理士」「カウンセリング」といった言葉が一般に普及し、以前よりも身近なものとなりつつある。大学の学生相談室などでは、アドバイスや訓練指導とは異なるという認識のもとで、カウンセリングを受けることを望み来談するクライアントが若干増加している印象がある。一方で、カウンセラーからすぐに答えを与えられることを求めて来談する場合もあり、また混乱状態で目標が定まらないまま相談機関に駆け込んでくるような場合もある。こうしたクライアントの多様な来談スタンスは、その後の面接の展開にも影響する。

さらに、来談以前にもっていた相談機関／カウンセリング／カウンセラーに対する意識の違いは、何らかの悩みや問題が生じた時点での実際の来談行動に反映すると考えられる。筆者は、大学入学時のアンケート調査で得られた学生相談室イメージの内容と実際の来談との関連を調べ、①依存・信頼・親近感・期待など肯定的イメージをもっていた群は入学後比較的早い時期に来談し、なかには再来を繰り返す学生もいる、②不信・疑問・違和感・非関与など否定的イメージの群は来談自体が少なく、来談しても中断しやすい、③客観的叙述のみの中立的イメージあるいはイメージなしと回答した群は来談率は最も高いが、情報や助言を得るための短期的利用が主である、④相談室イメージについての質問項目には無記入という形で態度保留していた群は長期終結事例が多く、問題意識が熟した時に来談し自己探求の場として利用する、といった結果が得られた(森田, 1997)。学生相談室イメージについての研究は他にもいくつか見られるが(早川ほか 1994, 西河ほか 1994, 櫻井ほか 1994, 荻原ほか 1995), 総合すると「暖かい」「安心する」などの肯定的な内容と「暗い」「重い」「行きづらい」といった否定的な内容とが同時に向けられる存在としての相談室が浮かび上がってくる。

相談面接の中で「自分で解決すべき」「人には頼りた

くない」などの理由で面接継続への抵抗が示されることがある。これは学生相談に特有の現象ではないが、依存と自立の葛藤を抱える青年期心性が刺激されて生じた発言と考えられる。相談機関に行くことが他者に依存することとしてのみ意識されると、自立への志向性や成長欲求との葛藤を引き起こし、来談に対して両価的な態度をもつことになるだろう。青年期において「相談する」行為がどのような意味をもつのかをカウンセラーが理解しておくことは学生相談や教育臨床での相談面接導入に際し有用だと考えられる。

そこで、専門的な相談機関への来談に限定せず、自分自身以外の他者に「相談すること」を青年がどのようにとらえているのか明らかにすることを目的として、大学生、高校生、中学生を対象として質問紙調査を実施した。本論文では大学1年生の調査結果について報告し、青年期後期における「相談すること」の意味について考察する。

2. 方法

(1) 質問紙

項目の作成: 「相談すること」の意味をあらわす言葉を次の手順で収集した。森田(1990)は、大学新入生1957名に実施した学生相談室アンケートにおいて「相談室のイメージおよび要望」を尋ねた質問への回答(1035名の自由記述)を、Table 1のように10カテゴリーに分類した。このうち「要望」と「イメージなし」を除く8カテゴリーに含まれる内容をもとに表現を修正の上、44項目を作成し、あらたに6項目を追加した。

質問紙の構成: フェースシートで、学年・性別・年齢の記入が求められた。教示文として、「人と人とのコミュニケーションにはさまざまな形がありますが、『相談する』というのもその一つです。あなたにとって、この『ひとに相談する』という行為は、どのような意味をもっているのでしょうか。以下の各項目について、あなたの気持ちや考えに当てはまる度合いがどれくらいか、4(とてもよく当てはまる)～1(まったく当てはまらない)の

間で、該当する数字を○で囲んでください。どうしても判断がつかない場合のみ、0（よくわからない）に○をつけてください。」が提示され、「私にとって『ひとに相談する』という行為は、」という言葉に続いて、50項目が示された。

(2) 対象

1999年6月に愛知県内の私立大学文系学部1年生の講義のなかで実施された。受講生約600名の回答が得られたが、一部2年生以上の学生が含まれ、年齢にも幅があった。今回検討するのは1年生（年齢18～19歳）に限定した。また、回答に不備のあるもの（欠損、重複回答）と、明らかに作為のあるもの（すべての項目で同じ番号に○をつける、など）を除き、457名（女子313名、男子144名）を分析対象とした。

(3) 分析方法

50項目それぞれの言葉がどの程度「相談すること」を意味しているかとらえられているかを検討するため、457名の回答結果から、項目ごとの平均評定値および回答分布にもとづいて全体の傾向を把握し、併せて項目の妥当性を検討した上で、因子分析により大学1年生にとっての「相談すること」の意味構造をとらえる。

3. 結果

(1) 項目別平均評定値

「よくわからない」とする回答を空値として、各項目の評定値の平均を求めた結果を Table 2 に示した。

平均評定値が最も高い項目は「信頼するということ」（平均3.27, 標準偏差.80）で、以下「大切なこと」「楽になること」「親しみのもてること」「暖かさを感じること」「真剣になること」「必要なこと」と続き、依存・信頼カテゴリーを中心とする肯定的内容が上位に集中していた。

平均評定値の最も低い項目は「価値のないこと」（平均1.10, 標準偏差.39）で、以下「不愉快なこと」「考えられないこと」「不利になること」「恐ろしいこと」と続き、不信・疑問カテゴリーを中心とする否定的内容が集中していた。

次に男女別の平均値を求め、t検定を行ったところ、24項目に有意差が見られた。女子の評定値が高いのは、「暖かさを感じること」（ $p < .01$ ）「信頼するということ」「楽になること」「親しみのもてること」「真剣になること」「受け容れてもらうこと」（以上、 $p < .05$ ）の6項目で、男子の評定値が高いのは、「価値のないこと」「不愉快なこと」「考えられないこと」「不利になること」「恐ろしいこと」「自分を見失うこと」「情けないこと」「かたぐるしいこと」「現実から逃げること」「無力感を味わうこと」「面白いこと」「恥ずかしいこと」（以上、 $p < .01$ ）「他人事と感ずること」「暗い感じがすること」「大げさなこと」「最後の手段」「気軽にできること」「不安なこと」（以上、 $p < .05$ ）の18項目であった。

(2) 項目別回答分布

「とてもよく当てはまる」「まったく当てはまらない」「よくわからない」という回答の出現比率の高い項目を

Table 1 森田（1990）における相談室イメージの内容と分類

相談室イメージ	記 述 例
＜肯定的イメージ＞	
依存・信頼	「頼りになる」「心強い」「必要なもの」「安心できる」「役に立つ」 「信頼できる場所」「味方」「心のよりどころ」「ありがたい」
親近感	「気軽にいけそう」「相談しやすそう」「親しみやすい」「明るい」
受容への期待	「親切なところ」「親身に相談にのってくれそう」「やさしい」「暖かい」
肯定的評価	「良いことだ」「すばらしい」「大切」
要 望	「気軽な所にしてほしい」「行ったらよろしく」「アドバイスしてほしい」
＜否定的イメージ＞	
両価的感情	「行きづらい」「近寄りやすい」「行くのに勇気がある」「最終手段」
違和感	「暗い」「かたい」「重々しい」「奇妙」
非関与の態度	「自分には必要ない」「相談相手がいない人が行くところ」
不信・疑問	「自分で解決すべき」「本当に解決できるのか」「怒られそう」 「役に立たない」「秘密が守られないのでは」
＜中立的イメージまたはイメージなし＞	
保 留	「まだよくわからない」「いわゆるカウンセリング」「人生相談」「保健室」

資 料

Table 2 項目別の平均評定値

	全 体		女 子		男 子		t 検 定
	M	SD	M	SD	M	SD	
12 信頼するということ	3.27	.80	3.32	.75	3.16	.88	*
37 大切なこと	3.14	.84	3.15	.80	3.12	.92	
15 楽になること	3.08	.84	3.12	.80	2.98	.90	*
13 親しみのもてること	3.08	.86	3.13	.83	2.96	.91	*
26 暖かさを感じる	3.07	.83	3.13	.78	2.93	.91	**
25 真剣になること	3.04	.86	3.09	.84	2.93	.90	*
11 必要なこと	3.03	.89	3.07	.88	2.96	.91	
22 安心できること	2.98	.84	3.01	.83	2.92	.86	
46 貴重なこと	2.94	.88	2.94	.85	2.95	.95	
23 救われること	2.92	.84	2.96	.83	2.83	.87	
14 役に立つこと	2.92	.84	2.92	.82	2.94	.89	
1 心強いこと	2.92	.86	2.95	.83	2.85	.93	
16 自分をさらけ出すこと	2.91	.86	2.93	.83	2.88	.93	
34 頼りになること	2.90	.87	2.92	.84	2.87	.93	
50 他者との交流	2.81	.92	2.82	.88	2.78	1.01	
47 受け容れてもらうこと	2.76	.90	2.82	.84	2.63	1.03	*
2 やさしさを求めること	2.66	.88	2.66	.87	2.67	.92	
45 有意義なこと	2.45	.94	2.46	.91	2.42	1.00	
36 うれしいこと	2.44	1.00	2.43	.99	2.46	1.03	
24 身近なこと	2.43	.92	2.46	.90	2.35	.96	
9 勇気のいること	2.42	.97	2.45	.94	2.36	1.04	
35 自分を高めること	2.41	.98	2.43	.94	2.35	1.06	
49 特別なこと	2.38	1.06	2.38	1.05	2.38	1.09	
4 居心地のよいこと	2.35	.85	2.39	.82	2.29	.90	
33 味方が得られること	2.30	.87	2.29	.86	2.3	1.90	
18 迷惑をかけること	2.13	.86	2.15	.85	2.10	.86	
7 弱みを見せること	2.13	1.01	2.16	.99	2.07	1.07	
5 興味深いこと	2.08	.94	2.06	.90	2.12	1.00	
17 不安なこと	2.04	.88	1.99	.85	2.15	.93	*
32 依存すること	2.00	.84	1.97	.80	2.07	.92	
3 気軽にできること	2.00	.84	1.93	.80	2.13	.91	*
6 最後の手段	1.96	1.02	1.89	.98	2.12	1.09	*
19 恥ずかしいこと	1.92	.84	1.83	.79	2.13	.90	**
44 身構えてしまうこと	1.63	.84	1.61	.83	1.67	.86	
27 わがままなこと	1.59	.84	1.56	.79	1.65	.93	
48 面白いこと	1.58	.80	1.47	.71	1.78	.92	**
20 大げさなこと	1.49	.75	1.43	.69	1.61	.86	*
28 暗い感じがすること	1.38	.70	1.33	.65	1.46	.79	*
30 無力感を味わうこと	1.37	.73	1.31	.63	1.49	.89	**
21 現実から逃げる	1.36	.68	1.30	.54	1.50	.88	**
29 かたぐるしいこと	1.35	.67	1.29	.56	1.50	.83	**
10 期待できないこと	1.30	.60	1.26	.54	1.37	.71	
42 情けないこと	1.29	.63	1.20	.47	1.49	.84	**
41 他人事と感	1.28	.59	1.23	.54	1.37	.68	*
43 自分を見失う	1.27	.65	1.19	.51	1.42	.85	**
31 恐ろしいこと	1.25	.59	1.20	.52	1.36	.71	**
40 不利になる	1.23	.55	1.17	.47	1.35	.68	**
39 考えられない	1.20	.58	1.11	.42	1.39	.78	**
38 不愉快なこと	1.18	.52	1.13	.44	1.30	.64	**
8 価値のない	1.10	.39	1.07	.31	1.18	.51	**

(各項目番号は質問紙で用いたもの)

* p<.05 ** p<.01

青年期における「相談する」行動の意味

Table 3 「とてもよく当てはまる」回答出現率の高い項目

○数字は順位, (%) は回答者の比率

全 体	女 子	男 子
①信頼するということ (45.7%)	①信頼するということ (47.9%)	①信頼するということ (41.0%)
②大切なこと (39.0%)	②大切なこと (38.3%)	②大切なこと (40.3%)
③親しみのもてること (36.3%)	③親しみのもてること (37.7%)	③親しみのもてること (33.3%)
④楽になること (35.7%)	④楽になること (37.1%)	④楽になること (32.6%)
⑤必要なこと (35.5%)	⑤必要なこと (36.7%)	必要なこと (32.6%)
⑥真剣になること (34.6%)	⑥真剣になること (36.1%)	貴重なこと (32.6%)
⑦暖かさを感じることに (34.6%)	⑦暖かさを感じることに (35.8%)	⑦暖かさを感じることに (31.9%)
⑧安心できることに (31.5%)	⑧安心できることに (32.9%)	⑧真剣になることに (31.3%)
⑨貴重なことに (29.5%)	⑨救われることに (29.7%)	⑨自分をさらけ出すことに (30.6%)
⑩救われることに (29.1%) 自分をさらけ出すことに (29.1%)	⑩心強いことに (29.1%)	役に立つことに (30.6%) 頼りになることに (30.6%) 他者との交流 (30.6%)

Table 4 「まったく当てはまらない」回答出現率の高い項目

○数字は順位, (%) は回答者の比率

全 体	女 子	男 子
①価値のないこと (83.4%)	①価値のないこと (87.5%)	①価値のないこと (74.3%)
②考えられないこと (77.7%)	②考えられないこと (82.1%)	②自分を見失うこと (70.8%)
③不愉快なこと (77.5%)	③不愉快なこと (80.8%)	③不愉快なこと (70.1%)
④不利になること (75.3%)	④不利になること (78.0%)	④不利になること (69.4%)
⑤自分を見失うこと (74.8%)	⑤自分を見失うこと (76.7%)	現実から逃げることに (69.4%)
⑥情けないこと (72.9%)	⑥情けないこと (76.4%)	無力感を味わうことに (69.4%)
⑦恐ろしいこと (71.3%)	⑦恐ろしいこと (74.1%)	⑦考えられないこと (68.0%)
⑧かたぐるしいこと (70.5%) 現実から逃げることに (70.5%)	⑧かたぐるしいこと (72.5%) ⑨他人事と感ずること (71.6%)	⑧かたぐるしいこと (66.0%) 暗い感じがすること (66.0%)
⑩無力感を味わうことに (70.0%)	⑩現実から逃げることに (70.9%)	⑩情けないこと (65.3%)
⑪他人事と感ずること (69.6%)	⑪無力感を味わうことに (70.3%)	恐ろしいこと (65.3%)
⑫暗い感じがすること (68.9%)	暗い感じがすること (70.3%)	他人事と感ずること (65.3%)
⑬期待できないこと (66.7%)	⑬期待できないこと (67.4%)	期待できないこと (65.3%)

Table 5 「よくわからない」回答出現率の高い項目

○数字は順位, (%) は回答者の比率

全 体	女 子	男 子
①興味深いこと (17.7%)	①興味深いこと (21.4%)	①価値のないこと (13.9%)
②面白いこと (16.4%)	②面白いこと (18.9%)	②期待できないこと (11.8%)
③うれしいこと (13.4%)	③うれしいこと (16.0%)	恐ろしいこと (11.8%)
④自分を高めること (12.9%)	④自分を高めること (15.3%)	④面白いこと (11.1%)
⑤期待できないこと (12.7%)	⑤居心地のよいこと (14.4%)	不愉快なこと (11.1%)
⑥恐ろしいこと (11.8%) 居心地のよいこと (11.8%)	有意義なこと (14.4%) ⑦期待できないこと (13.1%)	⑥興味深いこと (9.7%) 依存すること (9.7%)
⑧他人事と感ずること (11.6%) 有意義なこと (11.6%)	⑧他人事と感ずること (12.8%) ⑨恐ろしいこと (11.8%)	⑧他人事と感ずること (9.0%) 心強いこと (9.0%)
⑩不愉快なこと (10.5%)	⑩考えられないこと (10.5%)	特別なこと (9.0%)

Table 3～5に示した。

相談することの意味として「とてもよく当てはまる」とする回答の比率が最も高いのは「信頼すること」で、被験者全体の45.7%、女子の47.9%、男子の41.0%を占めていた。概ね30%までの上位10項目をTable 3に示したが、性別による大きな違いは見られなかった。

相談することの意味に「まったく当てはまらない」とする回答比率が最も高いのは「価値のないこと」で、全体の83.4%、女子の87.5%、男子の74.3%を占めていた。Table 4に示した上位13項目（65%以上）は、若干順位が前後しているが男女とも同一の内容であった。「よくわからない」の回答比率が最も高いのは、被験者全体および女子では「興味深いこと」（それぞれ17.7%、21.4%）であったが、男子では「価値のないこと」（13.9%）が最も高かった。「よくわからない」という回答が生じる項目については性別によって異なった傾向があり、女子は「興味深いこと」「面白いこと」など親近感カテゴリーに多く、男子は「価値のないこと」「期待できないこと」「恐ろしいこと」など不信・疑問カテゴリーに多かった。また、女子の方が男子より「わからない」と回答しやすいことが伺われた。

(3) 因子分析

「相談すること」の意味として「まったく当てはまらない」とする回答が被験者全体の65%以上を占めた13項目は、対象者全体に共通して低い評定値に集中していると考えられ（平均評定値<1.40、標準偏差<.75）、これらを除いた37項目について、因子分析を行った。37項目のいずれかに対して「よくわからない」という回答をした被験者が除かれるため、ここでは224名（女子144名、男子80名）が対象となった。

①全体の因子分析

対象者244名の回答を用いて因子分析（主因子法、Varimax回転）を行った。固有値の減衰状況（9.15, 4.07, 1.60, 1.20, 0.69……）から2～4因子の範囲で比較検討した結果、解釈可能性から3因子解を採用した。回転後の因子負荷量をTable 6に示す。

第Ⅰ因子は、「頼りになること」「信頼すること」「暖かさを感じること」など18項目で構成され、＜相談することへの信頼・期待＞因子と命名した。第Ⅱ因子は、「迷惑をかけること」「恥ずかしいこと」「身構えてしまうこと」など11項目から構成され、＜相談することへの躊躇・抵抗＞因子と命名した。第Ⅲ因子は、「面白いこと」「気軽にできること」など4項目から構成され、＜相談することへの肯定的関心＞因子と命名した。単一の因子にのみ負荷量.40以上を示す項目を各因子の下位

項目とし、それらの評定値から求めた α 係数は、それぞれ.92, .84, .70であった。

②男女別の因子分析

女子144名と男子80名のそれぞれについて因子分析（主因子法、Varimax回転）を行った。それぞれの回転後の因子負荷量をTable 6に示す。

女子については、固有値の減衰状況（9.26, 4.19, 1.41, 1.29, 0.60……）から2～4因子の範囲で比較検討した結果、解釈可能性から2因子解を採用した。第Ⅰ因子は、「大切なこと」「暖かさを感じること」「役に立つこと」など21項目で構成され、＜相談することへの重視・信頼＞因子と命名した。第Ⅱ因子は、「恥ずかしいこと」「迷惑をかけること」「不安なこと」など10項目から構成され、＜相談することへの躊躇＞因子と命名した。単一の因子にのみ負荷量.40以上を示す項目を各因子の下位項目とし、それらの評定値から求めた α 係数は、それぞれ.93, .84であった。

男子については、固有値の減衰状況（9.07, 4.37, 2.05, 1.36, 0.96……）から2～4因子の範囲で比較検討した結果、解釈可能性から3因子解を採用した。第Ⅰ因子は、「頼りになること」「信頼すること」「心強いこと」など15項目で構成され、＜相談することへの信頼＞因子と命名した。第Ⅱ因子は、「身構えてしまうこと」「最後の手段」「大げさなこと」など9項目から構成され、＜相談することへの抵抗＞因子と命名した。第Ⅲ因子は、「うれしいこと」「面白いこと」「身近なこと」など8項目から構成され、＜相談することへの喜び・関心＞因子と命名した。単一の因子にのみ負荷量.40以上を示す項目を各因子の下位項目とし、それらの評定値から求めた α 係数は、それぞれ.91, .85, .85であった。

4. 考 察

(1) 青年期後期における「相談すること」の意味

項目ごとの回答分布状況から、今回対象となった大学1年生の約半数が「相談すること」とは「信頼すること」であると意味づけ、8割強が「価値のないこと」ではないと考えていた。また、「相談すること」は「大切」で「親しみのもてる」などの肯定的意味づけが、比較的共通して存在することが明らかとなった。さらに、「考えられない」「不愉快」など否定的意味づけがされることは少ないという結果が得られた。

因子分析の結果、肯定的意味づけは「信頼する」「頼りになる」などに代表される＜相談することへの信頼・期待＞と、「面白い」「気軽にできる」といった＜相談することへの肯定的関心＞とに分かれていた。＜信頼・期待＞は、まさに相談する際に感じるであろう、意識的ま

青年期における「相談する」行動の意味

Table 6 対象者244名の因子分析結果

項目	全体			女子		男子		
	I	II	III	I	II	I	II	III
<相談することへの信頼・期待>								
頼りになること	.747	-.016	.099	.709	.087	.732	-.057	.222
信頼するということ	.734	-.076	-.053	.663	-.043	.729	.020	.002
暖かさを感じる	.714	-.002	.126	.727	.014	.593	.090	.290
救われること	.684	.134	.081	.700	.191	.590	.131	.153
心強いこと	.679	-.112	-.019	.575	-.088	.719	-.004	.079
安心できること	.672	.048	.078	.647	.117	.610	.028	.238
大切なこと	.655	.010	.192	.759	.039	.547	.001	.155
必要なこと	.653	-.034	.151	.615	.033	.695	-.084	.214
受け容れてもらうこと	.644	.110	.188	.596	.228	.687	.005	.263
役に立つこと	.635	-.042	.279	.712	-.072	.549	.042	.402
貴重なこと	.594	.115	.264	.601	.188	.632	.001	.288
親しみのもてること	.589	-.050	.266	.704	-.079	.425	.042	.337
真剣になること	.568	.122	.270	.661	.144	.345	.146	.490
楽になること	.543	-.006	-.001	.573	.151	.476	-.201	-.014
居心地のよいこと	.485	-.071	.296	.567	-.043	.441	-.161	.298
やさしさを求めること	.463	.270	-.033	.367	.250	.560	.368	-.005
自分を高めること	.446	-.011	.411	.541	.035	.380	-.130	.512
有意義なこと	.426	.056	.243	.443	.176	.378	-.127	.364
自分をさらけ出すこと	.422	.272	-.008	.365	.436	.366	.084	.147
味方が得られること	.390	.175	.189	.379	.157	.402	.203	.378
<相談することへの躊躇・抵抗>								
恥ずかしいこと	.036	.694	-.153	-.017	.747	.154	.614	-.209
迷惑をかけること	.070	.676	.039	.177	.713	-.138	.576	-.025
大げさなこと	-.058	.670	.129	.045	.623	-.178	.674	.203
身構えてしまうこと	-.041	.654	-.087	-.165	.647	.087	.709	.010
不安なこと	.043	.611	-.047	-.024	.652	.150	.524	-.061
最後の手段	.000	.559	-.125	-.016	.498	.019	.704	-.141
勇気のいること	.209	.543	-.388	.046	.586	.307	.553	-.451
弱みを見せること	-.046	.517	-.027	-.111	.554	-.045	.467	.024
依存すること	.141	.471	.088	.222	.353	.033	.666	.126
わがままなこと	-.073	.437	.206	.120	.317	-.254	.520	.126
特別なこと	.397	.430	.047	.378	.422	.400	.494	.091
<相談することへの肯定的関心>								
面白いこと	.032	.015	.653	.330	-.092	-.085	-.003	.650
うれしいこと	.487	.022	.547	.657	-.024	.375	.012	.662
気軽にできること	.151	-.268	.528	.316	-.372	.203	-.250	.506
興味深いこと	.337	.071	.483	.470	.019	.341	.034	.501
他者との交流	.383	.095	.455	.499	.021	.342	.124	.533
身近なこと	.441	-.142	.450	.572	-.291	.351	.063	.593
2乗和	8.10	4.04	2.70	9.09	4.36	7.20	4.35	3.96
因子間相関	II -.653**					II -.653**		
	III .118	-.607**		II -.764**		III .118	-.607**	

** p<.01

たは無意識的な心情であるのに対し、＜肯定的関心＞はやや距離をおいた第三者的な視点から相談という行為を表現した言葉が主となっている。他方、否定的意味づけとして＜相談することへの躊躇・抵抗＞が抽出され、「迷惑をかける」「恥ずかしい」など相談したくとも簡単にはできない、両価的な気持ちが存在していた。なお、「価値のない」「不愉快」など全体の65%以上が「まったく当てはまらない」と回答した13項目は因子分析の対象からは外されたが、すべて「相談すること」に対する明確な拒否や不信感を表す言葉であった。これらが一つのまとまりを形成しているかどうかは、今回の結果から述べることはできないが、臨床実践のなかでは相談に対する否定的感情を扱うことは重要であり、今後の検討課題としたい。

(2) 性別による意味づけの違い

一般に自己開示傾向や対人関係への関心などにおいて女子の方が男子より高いとされ、ここでとりあげた「相談すること」への親和性も女子が高いであろうと予想された。項目別評定値の分布からは、「相談すること」の意味として当てはまる／当てはまらないとみなされるものについては男女に共通した内容であったが、平均評定値の男女差を見ると、女子が肯定的内容の項目をより肯定的に、男子が否定的内容の項目をより否定的に位置づけていることが示されていた。

男女別に行った因子分析の結果、女子は＜相談することへの重視・信頼＞と＜躊躇＞の2因子、男子は＜信頼＞＜抵抗＞＜喜び・関心＞の3因子が抽出された。肯定的意味づけと考えられる因子について、男子の＜信頼＞＜喜び・関心＞は、いくつかの項目の組み替えが生じていたものの、全体の＜信頼・期待＞と＜肯定的関心＞にはほぼ対応しており、女子の＜重視・信頼＞はそれらが一体となったものとも言える。因子負荷量の高い項目の内容に注目してみると、女子の場合は、「大切」「役に立つ」といった視点を軸にしたまとまりであると解釈された。男子の場合は、「頼り」「信頼」を中心とするまとまりと、「うれしい」「面白い」を中心とするまとまりとに分化していた。後者の＜喜び・関心＞因子に含まれる項目には、女子において相談することの意味として当てはまるかどうか「よくわからない」とする回答出現比率が15%を超えるものが4項目含まれていた。

否定的意味づけと考えられる因子に含まれる項目については、男女ともかなり一致した内容であった。ただし、それぞれ負荷量の高い項目を見ると、女子では「恥ずかしい」「迷惑をかける」といった、相談したいけれども躊躇や戸惑いを感じる気持ちが強調され、男子では「身

構える」「最後の手段」など、よほどのことがない限り相談はしたくないと感じている気持ちが伺える。

これらのことから、相談することに対して女子は男子より肯定的に意味づけているが、男子の方が分化したとらえ方をしていることが示唆される。女子は自分にとって重要かどうかという視点で自我親和的に相談をとらえようとするのに対して、男子はやや距離をおいて相談とはどういう意味かと多面的に見ようとする傾向があるのではないかと考えられる。

(3) まとめと今後の課題

本研究は青年期後期における「相談すること」の意味構造を明らかにすることを目的とし、大学1年生457名を対象として調査を行った結果、＜信頼・期待（または重視）＞＜肯定的関心＞＜躊躇・抵抗＞という意味づけが存在することが明らかとなり、さらに＜拒否・不信＞という側面が存在する可能性が示唆された。また、相対的に見て女子は男子より「相談すること」に親和的であること、男子は「相談すること」への意味づけが女子より分化していることが示された。ここで得られた、相手を特定しない「相談すること」一般への認識が、実際の相談行為とどのように結びついていくのかについては、日常場面（友人、家族など）と臨床場面とでは異なる予想される。印象の域を出ないが、臨床場面ではここで見られたような男女差が実感されることは少ない。また、＜躊躇・抵抗＞や＜拒否・不信＞を強くもちながら、いかにそれを乗り越えて相談に訪れるかというプロセスが治療的に大きな意味をもつ。他方、日常場面では＜信頼・期待＞や＜肯定的関心＞が直接作用しやすいのではないかと考えられる。さらに、青年期前期・中期や成人期との比較をすることによって、教育相談や学生相談、あるいは学校場面での生徒指導など、異なる年代や状況における理解と介入の工夫を検討していく必要がある。

引用文献

- 早川千恵子・佐藤成子・林さち子 1994 調査報告—「不安・悩み」に関する調査— 東京女子大学学生相談室報告書, 1, 3-42
- 森田美弥子 1990 学生相談室イメージの分析—大学入学時のアンケートにもとづいて— 名古屋大学学生相談室紀要, 2, 17-24
- 森田美弥子 1997 学生相談イメージと来談の関係—大学生を対象にして— 心理臨床学研究, 15, 406-415
- 西河正行・鈴木典子 1994 学生は学生相談室をどのよ

うに見ているか？－短期大学と専門学校の学生相談室調査を通して－ 慶應義塾大学学生相談室紀要, 22/23, 63-76
荻原公世・吉川政夫・山田實 1995 学生相談のイメージとあり方－学生相談室に関する調査・中間報告－

東海大学学生相談室報告, 28, 120-129
櫻井信也・有田モト子 1994 SD法による学生相談センターに関するイメージの調査 学生相談研究, 15, 10-17

(2003年9月30日 受稿)

ABSTRACT

The Meaning of 'Taking Consult' Behavior for University Students

Miyako MORITA

Taking counsel with someone is one of personal communication. What does it mean for adolescent people who have inner conflict between dependence and independence ?

457 university students answered the questionnaire about meanings of taking counsel, consisted of 50 items. Main results are follows. Students' attitudes toward taking consult had three aspects; (1) reliance and expectation, (2) positive regard and interest, and (3) hesitation and passive resistance. Female students have an affinity in taking counsel more than males. Male students grasped the meaning more many-sidedly than females.